

# 防災訓練 より実践的

## 常総の小中生ら 豪雨被害教訓

「防災の日」の1日、常総市内の19小中学校が防災訓練に取り組んだ。2年前の「関東・東北豪雨」で鬼怒川決壊による水害を忘れないよう、昨年から始めた。今年は国土交通省や地元NPOなどが協力して、より実践的な内容となつた。



保育園児らの手を引いて避難訓練をする中学生たち＝常総市

## 避難所ゲームや事前計画作り

水海道中学校（同市小山戸町、314人）では、水害を想定して全校生徒が校舎3階に避難。近くの市立水海道第六保育所の園児36人を生徒たちが保育所まで迎えに行き、手をつないで学校まで避難させた。

このあと、グループに分かれて教室で「避難所運営ゲーム」をした。同校体育馆を避難所に想定し、次々と避難していく市民をカードに置き換えて、体育馆の図面に置いていった。「人が運び込まれた」「使用禁止のトイレを皆が使っている」など、様々な問題も加わり、本番ながらの運営を体験した。

被災者支援のNPO「助け合いセンター・ジュントス」などの協力を得た。2年前の水害では水海道小な

どに数ヶ月避難していたという広瀬彩花さん（3年）「運営する側になつて大変なんだと分かった。今日の体験を生かして、将来は避難所運営を手伝いたい」と話した。

三妻小学校（同市中妻町、215人）では、小学生たちが事前避難計画の個

人版「マイ・タイムライン」作りに挑戦した。児童が住む地区ごとに、1年から6年まで7グループに分かれ「上流の雨量を調べ始める」「避難しやすい服装に着替える」など、六つの避難準備を書いたパネルが配られ、皆で議論しながら順番に並べた。（三嶋伸二）